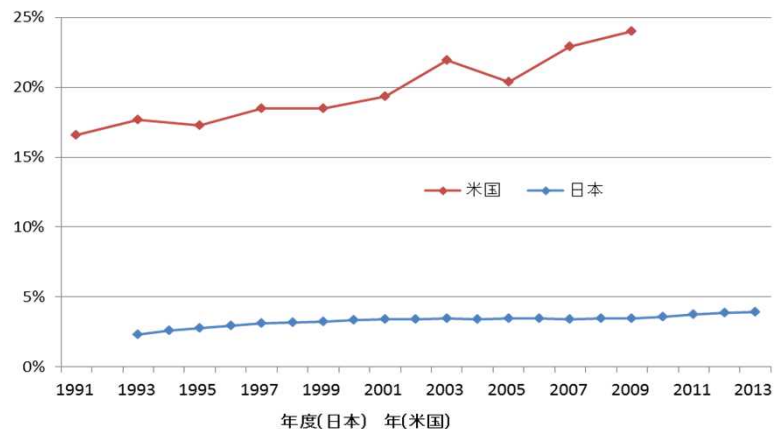


## 図3-18 / 外国人研究者の動向（大学、独法の推移と国際比較）

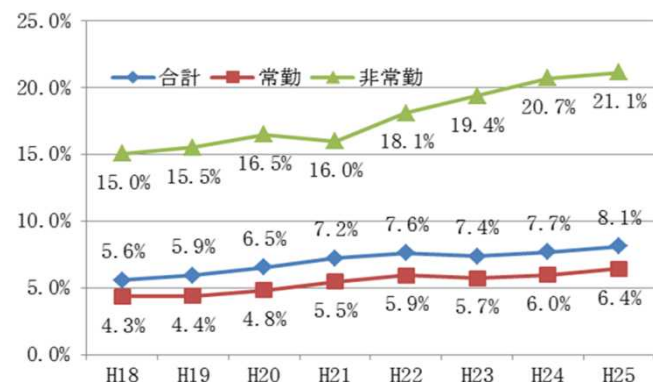
○我が国の大学及び独法における外国人割合は徐々に増加している。しかしながら、諸外国と比較すると低い。

### 【大学教員における外国人割合】



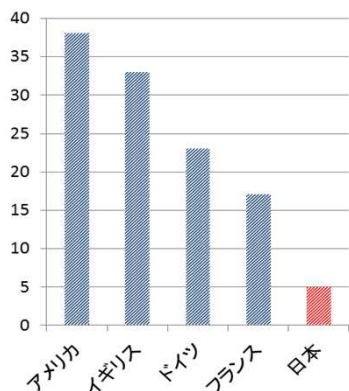
出典：文部科学省「学校基本調査」、OECD “SCIENCE AND ENGINEERING INDICATORS” をもとに文部科学省作成

### 【研究開発型の独立行政法人における外国人研究者割合の推移】



出典：内閣官房「研究開発法人についての共通調査票（独立行政法人改革等に関する分科会）」、内閣府「独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動の把握・所見とりまとめ」のデータを基に文部科学省作成

### 【主要国における外国人研究者の割合】

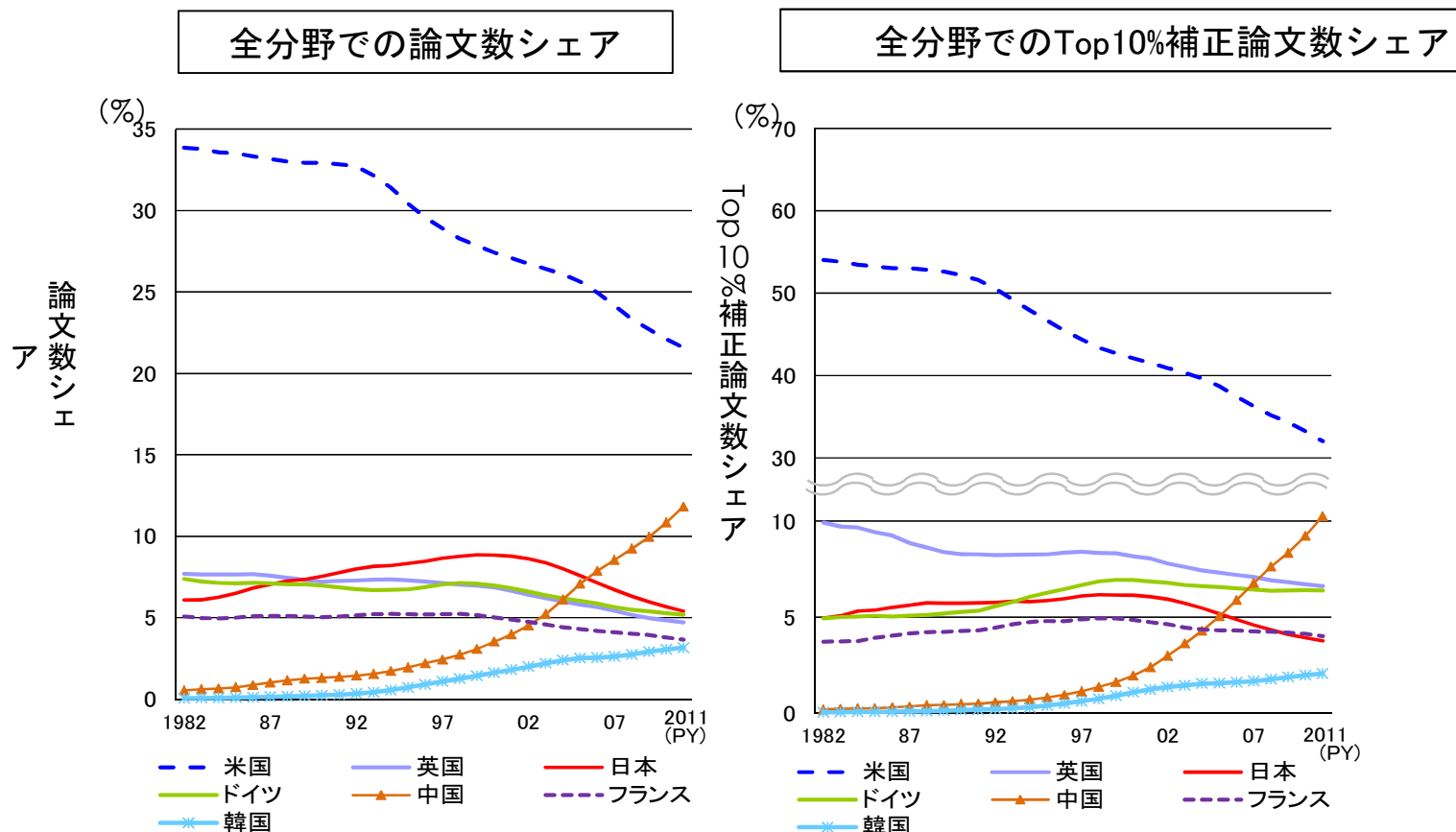


※ 約17000名の研究者を対象として、生誕地及び国境を越えた移動について調査することで、外国人研究者の割合を調べたもの。

出典：Nature 490, 326-329

図3-19 / 主要国の論文シェア及びTop10%補正論文数シェアの推移

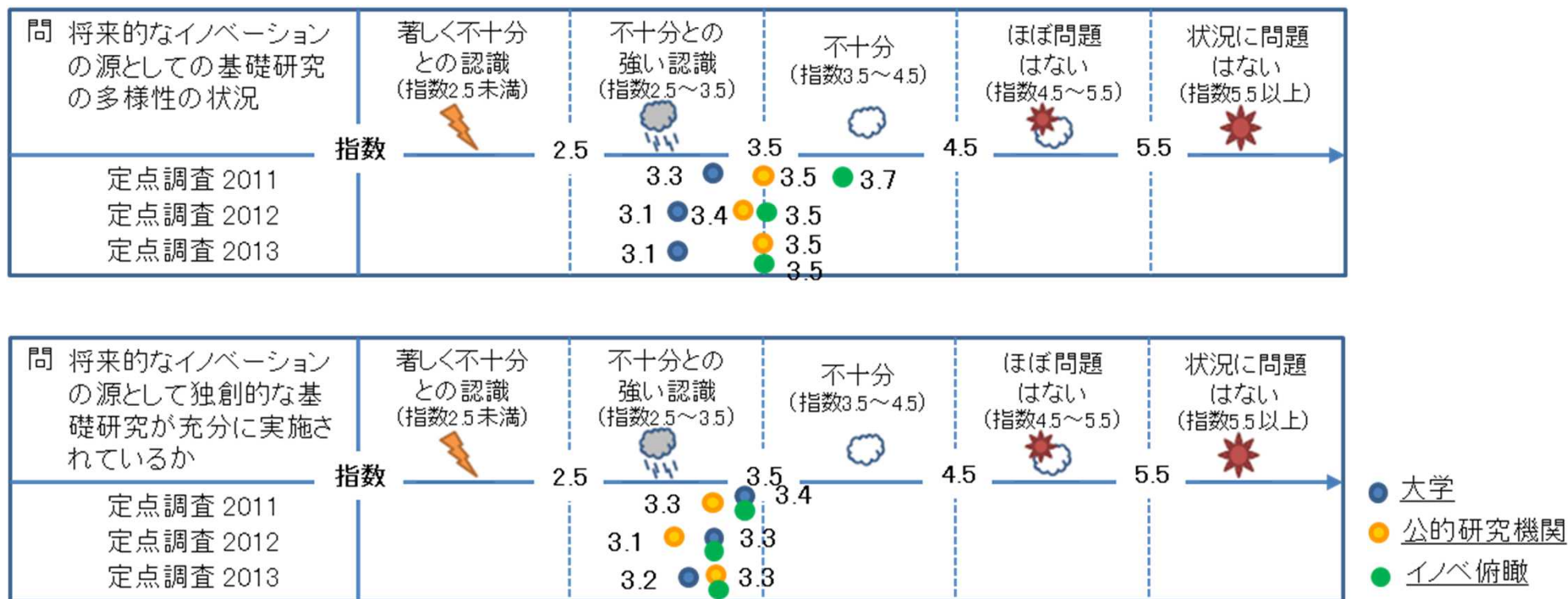
- 中国の論文数シェア及びTop10%補正論文数シェアが1990年代後半から急激に増加。他方、我が国や米国、英国等のシェアは低下傾向。
- 我が国は論文数シェアと比較して、Top10%補正論文数シェアの方が低い。



※ 分析対象は、article, reviewである。年の集計は出版年（Publication year, PY）を用いた。全分野での論文シェアの3年移動平均（2011年であればPY2010、PY2011、PY2012年の平均値）。分数カウント法である。被引用数は、2013年末の値を用いている。  
 ※ トムソン・ロイター社 Web of Science (SCIE, CPCI:Science)を基に、科学技術・学術政策研究所が集計

図3-20 / 基礎研究に対する関係者の意識の推移

○「将来的なイノベーションの源としての基礎研究の多様性の状況」、「将来的なイノベーションの源として独創的な基礎研究が十分に実施されているか」の質問に対し、大学、公的研究機関、イノベーション俯瞰のいずれのグループも、不十分との強い認識を示している。



※イノベーション俯瞰グループは、産業界等の有識者や研究開発とイノベーションの橋渡しを行っている者で構成されている。

出典：科学技術・学術政策研究所「科学技術の状況に係る総合的意識調査（NISTEP定点調査2013）」  
NISTEP REPORT NO. 157（平成26年4月）を基に文部科学省作成